
PRESS RELEASE

ロンドン、2026年3月4日午前6時

プラチナ市場は4年連続で供給不足：2025年の34トンに続き、 2026年は7トンの供給不足を予想

- 2025年の34トンに上る深刻な供給不足に続き、2026年は7トンの不足を予想
- 地上在庫は枯渇し、2026年を通じて世界需要の4か月分強の水準にとどまる見込み
- 地金・コインの総投資需要は35%増の23トンに急増する見込み。全市場で増加が予想され、インドが新たな成長市場として台頭しつつある
- 上場投資信託（ETF）および取引所在庫は高水準を維持すると予想されるものの、2025年に見られたような大規模な資金流入は繰り返されない見通しであるため、総需要は2025年比8%減の237トンとなる見込み
- ガラス生産能力の拡大再開に伴い、産業需要は11%増の66トンに回復する見込み。自動車需要の3%減および宝飾品需要の12%減を相殺する一助となる
- 価格上昇を背景にリサイクル供給が10%増加する一方、鉱山供給は横ばいが予測されており、プラチナの総供給量は2%増加する見通し

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの **Trevor Raymond**（トレヴァー・レイモンド）CEO によるコメント：

「2025年のプラチナ価格上昇の主な原動力、すなわち需給の強固なファンダメンタルズ、地上在庫の枯渇、マクロ政治の不確実性に起因する貴金属需要は、2026年も継続すると予想されます。その結果、市場の逼迫は継続する可能性が高く、投資家は引き続きプラチナに関心を寄せ、年間を通じて地金・コイン、ETFの需要がさらに下支えされるでしょう。需給バランスにまだ反映されていない項目として、広州先物取引所に保管されている取引所在庫が挙げられます。これが公表された場合、供給不足は現在の予測よりも拡大する可能性があります。」

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC®）は本日、2025年第4四半期の **Platinum Quarterly** と、2025年通年の総括を発表し、2026年予想を修正しました。

プラチナ価格の上昇も一因となり、第4四半期の投資需要は予想以上に強く、2025年通年のプラチナ市場の供給不足は34トンに増加しました。これは、2014年以降の **Platinum Quarterly** のデータの中で最大の不足幅です。2025年通年の総需要は、非常に旺盛な投資需要と宝飾品需要の伸びに牽引され、前年比1%（2トン）増の258トンとなり、過去9年間で最高水準に達しました。総供給量は1%減少し、224トンとなりました。

プラチナ市場は当初、2026年は概ね均衡すると予想されていましたが、現在では7トンの供給不足となり、年間供給は4年連続で不足すると予想されています。これは、これまでの利益確定の予想とは対照的に、ETFの安定した保有をサポートする強い投資家心理を反映しています。2026年の総需要は、前年比8%（21トン）減の237トンになると予想されます。総供給量は、リサイクル供給の伸びのみを背景に、前年比2%増の230トンになると予想されます。

全体として、2023年以降に蓄積した市場全体の不足量は、2026年末には93トンに迫ると予想されます。さらに、すでに枯渇している地上在庫は一段と減少し、世界需要の4か月分強に相当する81トンになる見通しです。

2026年も鉱山供給は低調に推移するが、リサイクルの増加により総供給量は増加

2025年の年間鉱山供給量は、前年比4%（7トン）減の173トンとなりました。2026年の鉱山供給量は、横ばいの173トンが見込まれており、南アフリカとジンバブエでの増加分が北米とロシアでの減少分によって相殺される形となります。

価格上昇により、使用済み自動車触媒材料の流通が促進され、特に中国で宝飾品のリサイクルが増加したため、2025年にはリサイクル供給が回復し始めました。リサイクル供給量は前年比10%（5トン）増の52トンとなりました。こうした傾向が継続すれば、2026年もリサイクル供給の成長は続き（10%（5トン）増の57トン）、予想される総供給量の2%増が達成されるでしょう。

ハイブリッド化傾向が自動車需要の減少を緩和

2025年の自動車需要の減少は、小型ハイブリッド車と大型車の生産がそれぞれ前年比で17%、4%増加したことにより、ある程度緩和されました。その結果、触媒搭載車の総生産台数が減少したため、自動車需要は前年比で2トン（2%）減にとどまり、94トンとなりました。

2026年の自動車需要は、3%（3トン）減の92トンに縮小すると予想されています。これは、大型車需要の軟化（-1%）と内燃機関（ICE）搭載小型車生産の減少（-7%）がハイブリッド車生産の12%増とオフロード車の3%増を上回っていることを反映しています。

貴金属価格の上昇が2026年の宝飾品需要を圧迫

2025年の宝飾品需要は、プラチナ価格の金価格に対する割安感を背景に、前年比9%（6トン）増の68トンとなり、2018年以来の最高水準に達しました。

価格上昇は需要を抑制するため、2026年の宝飾品需要は前年比12%（8トン）減少し、過去5年間の平均とほぼ同水準である60トンとなる見込みです。最も大きな変動が予想されるのは中国で、2025年に例外的に好調なパフォーマンスが見られた後、加工量は前年比36%減の12トンになると予測されています。

その他の地域の状況はさまざまです。北米では、プラチナの絶対価格の上昇が販売量に影響を与えるものの、プラチナ宝飾品への支出は力強く増加すると予測されています。ただし、需要は13%減少する見込みです。同様に、日本でも需要は5%縮小すると予想されます。欧州では、近年の記録的な成長が失速し、需要はほぼ横ばいになると予想されています。対照的に、インドでは輸出が正常化し、国内市場が拡大するにつれて、加工量が7%増加し、成長軌道に戻ると予想されています。

産業需要の回復

2025年通年の産業需要は、主にガラス需要の循環的な減少が予想されるため、前年比21%減の60トンとなりました。

産業需要は2026年に回復に転じ、11%（6トン）増の66トンになると予測されています。回復を牽引するのはガラスセクターで、2025年の生産能力の増強が限定的だったのに対し、需要は92%増の11トンに達すると予測されています。さらに、化学需要が10%増の20トン、水素定置用途が7%増の2トンにそれぞれ増加することが、需要をさらに下支えするでしょう。これらの増加分は、石油需要が17%減の5トンに縮小することで、一部は相殺されるでしょう。

2026年に地金・コインの総投資需要は過去最高を記録する見込み

2025年の総投資需要は、前年比65%（14トン）増の36トンとなりました。これは、中国主導の旺盛な地金・コイン需要を反映したもので、需要は前年比でほぼ倍増となる（+6トン）12トンに達しました。プラチナETFの保有高は、2025年末までに7%（7トン）増の110トンとなりました。年初に8トンだった取引所在庫は、2025年を通じて通常を大幅に上回る12トンの純流入を記録しました。当初は関税関連の懸念が原因でしたが、最近では米国通商拡大法232条に基づく調査をめぐる不確実性を反映しています。

2026年には、貿易摩擦が緩和し、高水準にある取引所在庫が若干取り崩され、3トンの流出につながるという想定の下、総投資需要は46%減の19トンになると予想されています。さらに、ETFの保有高は安定して推移すると予測されます。地金・コインの総投資額は35%（6トン）増の23トンに急増し、2014年以降の*Platinum Quarterly*のデータの中で最高水準に達すると見込まれています。プラチナ投資需要の観点から最近注目されているインドからの旺盛な投資意欲を背景に、すべての市場で需要の増加が予想されています。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの **Trevor Raymond**（トレヴァー・レイモンド）CEO はまた、次のように述べています。

「私たちは、世界のすべての主要市場におけるプラチナ投資の拡大に向けて、商品パートナーと引き続き協力していきます。過去11年間にわたり、私たちは長期的で有意義な関係を発展させ、投資家、パートナー、政策立案者の信頼を獲得してきました。この一例として、中国の主要銀行および大手宝飾品小売業者と協力し、銀行の支店を通じて個人に投資用のプラチナ地金を提供するという最近開始された取り組みが挙げられます。2025年の中国における記録的な投資需要を背景に、この取り組みは2026年以降にプラチナ投資量をさらに増加させる可能性を秘めています。」

| プラチナ需給バランス (トン) | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026予想 | 2025年/2024年成長率 (%) | 2026年予想/2025年成長率 (%) | 2024年第4四半期 | 2025年第3四半期 | 2025年第4四半期 |
|---------------------|-------|------|------|------|--------|--------------------|----------------------|------------|------------|------------|
| 供給 | | | | | | | | | | |
| 鉱産高 | 172 | 174 | 180 | 173 | 173 | -4% | 0% | 48 | 44 | 49 |
| 南アフリカ | 122 | 123 | 129 | 123 | 125 | -4% | 1% | 36 | 32 | 36 |
| ジンバブエ | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | -2% | 3% | 4 | 4 | 4 |
| 北米 | 8 | 9 | 8 | 7 | 6 | -21% | -8% | 2 | 2 | 2 |
| ロシア | 21 | 21 | 21 | 21 | 20 | 0% | -6% | 5 | 5 | 6 |
| その他 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 4% | -1% | 1 | 2 | 2 |
| 生産者製品在庫における増減 (+/-) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | -93% | -100% | -1 | -1 | +1 |
| 鉱山供給増減 | 173 | 175 | 180 | 173 | 173 | -4% | 0% | 47 | 43 | 50 |
| リサイクル | | | | | | | | | | |
| 自動車触媒 | 56 | 47 | 47 | 52 | 57 | 10% | 10% | 12 | 13 | 14 |
| 自動車触媒 | 43 | 35 | 36 | 38 | 42 | 7% | 10% | 9 | 10 | 10 |
| 宝飾品 | 12 | 10 | 9 | 11 | 12 | 19% | 10% | 2 | 3 | 3 |
| 工業 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 7% | 8% | 1 | 1 | 1 |
| 総供給量 | 229 | 222 | 227 | 224 | 230 | -1% | 2% | 59 | 56 | 64 |
| 需要 | | | | | | | | | | |
| 自動車 | 86 | 100 | 97 | 94 | 92 | -2% | -3% | 24 | 23 | 24 |
| 自動車触媒 | 88 | 100 | 97 | 94 | 92 | -2% | -3% | 24 | 23 | 24 |
| ノンロード | † | † | † | † | † | N/A | N/A | † | † | † |
| 宝飾品 | 58 | 58 | 62 | 68 | 60 | 9% | -12% | 16 | 15 | 16 |
| 工業 | 67 | 74 | 75 | 60 | 66 | -21% | 11% | 17 | 16 | 16 |
| 化学 | 21 | 26 | 19 | 18 | 20 | -8% | 10% | 4 | 4 | 4 |
| 石油 | 6 | 5 | 5 | 6 | 5 | 16% | -17% | 1 | 1 | 1 |
| 電気 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4% | 1% | 1 | 1 | 1 |
| ガラス | 14 | 15 | 22 | 6 | 11 | -74% | 92% | 4 | 3 | 3 |
| 医療 | 9 | 9 | 10 | 10 | 10 | 4% | 4% | 2 | 2 | 3 |
| 定置用水素、その他 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 63% | 7% | 0.4 | 0.5 | 0.7 |
| その他 | 14 | 15 | 15 | 15 | 15 | 1% | 0% | 4 | 4 | 4 |
| 投資 | -16 | 12 | 22 | 36 | 19 | 65% | -46% | 11 | 9 | 14 |
| 地金およびコインの増減 | 8 | 10 | 6 | 12 | 17 | 94% | 45% | 2 | 2 | 4 |
| 中国における500g以上の地金 | 3 | 4 | 5 | 5 | 6 | 2% | 12% | 1 | 1 | 2 |
| ETF保有高の増減 | -17 | -2 | 9 | 7 | 0 | -21% | -100% | 4 | -5 | 10 |
| 取引所在庫の増減 | -10 | 0 | 2 | 12 | -3 | >±300% | N/A | 4 | 11 | -1 |
| 総需要 | 196 | 243 | 256 | 258 | 237 | 1% | -8% | 68 | 63 | 70 |
| 需給バランス | 34 | -21 | -29 | -34 | -7 | N/A | N/A | -9 | -7 | -6 |
| 地上在庫 | **172 | 151 | 122 | 89 | 81 | -27% | -8% | | | |

出典：Metals Focus 2022 – 2026 予想

注記：

- ** 2018年12月31日現在の地上在庫114トン (Metals Focus)
- † オフロード自動車需要は、自動車触媒需要に含まれる

-以上-

メディア関連のお問い合わせ先：Elephant Communications：

wpic@elephantcommunications.co.uk

編集者への注記：

Platinum Quarterly について

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル (WPIC) が発行する *Platinum Quarterly* は、世界のプラチナ市場を四半期毎に分析するために、独立した立場で作成され、無料で提供される業界初のレポートです。WPIC が委託し、白金族金属市場の権威ある独立機関である Metals Focus が実施した調査と詳細な分析に主に基づいて作成されています。

World Platinum Investment Council (WPIC®、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル) について

World Platinum Investment Council Ltd. (WPIC、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル) は、現物プラチナ投資に関する世界市場の権威として、客観的で信頼できるプラチナ市場情報に対する、投資家の強いご要望を受けて設立されました。WPIC の使命は、行動可能な見識と目標を定めた商品開発を通じて、現物プラチナに対する世界の投資需要を喚起することにあります。WPIC は、南アフリカの主要プラチナ生産者によって 2014 年に設立されました。WPIC の加盟会社は、Valterra Platinum、Implats、Northam Platinum、Sedibelo Platinum、Tharisa、Bravo Mining and Podium Minerals です。

詳細は、ウェブサイト www.platinuminvestment.com をご覧ください

WPIC ロンドン事務局 : World Platinum Investment Council, Foxglove House, 166 Piccadilly, London, W1J 9EF

WPIC 上海事務所 : World Platinum Investment Council, Unit 1612, Shui On Plaza, No. 333 Middle Huaihai Road, Huangpu District, Shanghai, P.R.China

Metals Focus について

Metals Focus は、世界の大手貴金属コンサルティング会社の 1 つで、世界の金、銀、白金族金属市場の調査を専門とし、定期的なレポート、予測、特注のコンサルティングを行っています。Metals Focus チームは 8 つの法域に分散し、世界中の多数の情報源を網羅しています。これを活かし、Metals Focus は、貴金属市場に関する世界レベルの統計、分析、予測を提供することに特化しています。

詳細情報は、ウェブサイト www.metalsfocus.com をご覧ください。

プラチナについて

プラチナは世界で最も希少な金属の 1 つで、独特の物性を持つため、様々な需要分野において高く評価されています。プラチナ特有の物性および触媒活性は、工業利用においてその価値を確立しています。同時に、貴金属としての独自の特質を持つため、高級宝飾品にも使用されています。

プラチナには、主に鉱山での生産とリサイクルの 2 つの供給源があります。後者は使用済み自動車触媒と宝飾品のリサイクルによるものが主流です。過去 5 年間の年間プラチナ総供給量（精製済みオンス）の 75%~79%は、鉱山で生産されたものです。

世界のプラチナ需要は堅調で、ますます多様化しています。プラチナ需要の主要分野は、自動車、工業、宝飾品、投資の 4 つです。

過去 5 年間の自動車触媒からのプラチナ需要は、総需要の 36%から 44%に相当しています。自動車以外の工業分野でのプラチナの多様な使用は、世界総需要量の 30%を占めています（過去 5 年間の平均）。同期間において、宝飾品におけるグローバルな年間総需要は、平均で、プラチナ総需要の 27%を占めています。投資はプラチナ需要の中で最も変動が大きく、過去 5 年間は総需要の -8%から 14%を占めています（投資家が保有する未公表の保有残高の変動を除く）。

免責事項

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルおよび Metals Focus のいずれも、投資に関する助言を提供するための規制機関による許可を受けていません。本書のいかなる部分

も、投資に関する助言、証券もしくは金融商品の販売の提案または購入の助言を意図するものではなく、そのように解釈されるべきでもありません。投資を行う前に必ず適切な専門家による助言を受けてください。